

しめたら だめや

かおりちゃんは、おはなしが できません。でも かおりちゃんにはともだちが たくさん います。

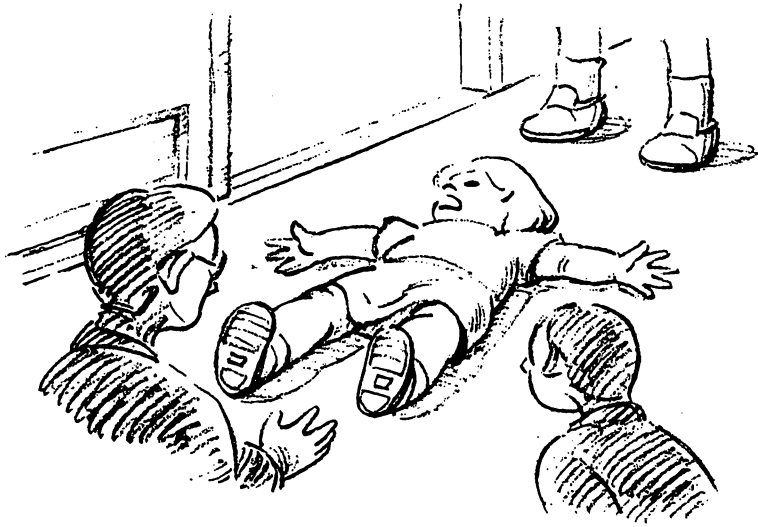
やすみじかんには、のぼるくんたちとてつぼうで こうもりふりを する

ことが 大すきです。チャイムが

なつても、むちゆうになつて している ことが あります。

その ときは のぼるくんたちが むかえに いきます。





ある 雨の 日の ことです。

先生が え本を きょうしつで よ
みはじめました。その とき、かお
りちゃんが 大きな こえを だし
て ろうかへ とびだして いきま
した。先生が むかえに いきまし
たが、かおりちゃんは あぼれだし
ました。そのうちに かおりちゃん
は、ろうかに ねころんで 大ごえ
を だしはじめました。先生もみん
なも こまって しまいました。

さとるくんが 「先生、とを しめて。」と いいました。先生は どう しようかと おもいましたが、との ほうへ ある きかけました。その ときです。のぼるくんが 「しめたら だめや。」と大きな こえで いいました。

☆かおりちゃんは、ともたちと いつも どんな ことを してましたか。

☆かおりちゃんは、先生が え本を よんだとき、どんな ことを しましたか。

☆そんなとき あなたなら どう しますか。

☆のぼるくんが 「しめたら だめや。」と いったのは、どうしてだと おもいますか。

しめたら だめや (小学校低学年向け)

A 教材設定の意図

子どもたちは学校という集団生活の場で、知らず知らずのうちに、みんなといっしょなことをしなければならぬという意識になりがちである。それは、みんなといっしょのことを「できる—できない」という価値観が、学校の中にあるからである。そして、そのような学校の価値観によって、生活しにくくさせられている子がいる。

一人ひとりには違った生活があり、さまざまな「思い」や、行動がある。この当たり前のことが、学校生活の中では忘れられがちになり、そのために子どもたちの中に「あの子、変な子や」とか「変わった子や」という見方から始まる、いじめや仲間はずれなどの問題が起こってくるのである。

学級の中で、お互いの違いを認め合い、いっしょに生活していける子どもたちの集団を作り出すには、どのような取り組みをしなければならぬかということ、本教材を通して考えたい。

本教材では、一見受け入れがたい行動をしているかおりちゃんの話を取っている。かおりちゃんと生活を共にすることによって、かおりちゃんの「思い」がわかってくる。つまり、みんなと違う行動をとる子どもの「思い」を、まわりの子どもたちや教師が、どれだけわかる関係をつくるのかということが大切なのである。そういう関係を作り出すことによって、友だちの

行動に「思い」をめぐらし、助け合う子どもたちを育てたい。

B 教材の解説

本教材は、ある小学校一年生の学級での話をもとにしている。この教材に出てくるかおりちゃんは「障害」を持っている。しかし、たくさんの子どもたちと関わりを持たせたいというお母さんの願いで、普通学級に入学してきた。

四月当初、初めてかおりちゃんと出会ったクラスの子どもたちは、かおりちゃんに近寄ってきて、大げさに体を避けるようにしたり、顔をのぞき込んですぐ去っていったり、かおりちゃんの目の前で大声でまねをしたり、かおりちゃんの頭をなでて行ったりなど、それぞれのやり方でかおりちゃんを確かめようとしていた。

やがて、かおりちゃんは授業中にも教室の外で遊ぼうとする。先生がかおりちゃんを教室に連れ戻そうとすると、かおりちゃんは暴れて抵抗した。それを見ているまわりの子どもたちの中には、小学校の時間割の枠にはめ込まれることを苦痛と感じる子もいた。そんな子どもたちは、「もつと遊びたいがや」と、かおりちゃんに共感していく。

このように、かおりちゃんといっしょに過ごす中で、学級の子どもたちは、少しずつかおりちゃんを理解していった。給食の時、コップをフォークでたたきながら大声を出すかおりちゃん

んを見て、「先生、かおりちゃん痛い痛いと言ってるよ」と言うようになった。やがてあれほど教室に入ろうとしなかったかおりちゃんが、学級の友だちといっしょに、チャイムが鳴ると教室に戻ってくるようになった。

このようにして、かおりちゃんと学級の子どもたちの関係が育っていった。お互いの違いを認め合い、仲間としていっしょに生活する集団に育っていったのである。そのことを象徴するできごととして「しめたらだめや」という子どもたちの発言があった。この教材は、こうした話をもとに構成したものである。

C 指導上の留意点

① それぞれの学級で、かおりちゃんのような話があれば、事前に教師の方で把握しておいて、まとめのところでそのことを考慮しながら以後の授業につなげてほしい。

② まとめとして、子どもたちに自分たちの生活を振り返って書かせる場合、子どもたちが本音を語ってくれる信頼関係をつくっておきたい。

③ 子どもたちが書いた作文は、再び学級に返し、子どもたちと共に考え合う場面をつくっていききたい。そうした取り組みを積み重ねて、真にお互いの違いを認め、仲間として生活する集団をつくりたい。

D 参考資料

・ 第四次（一九九一年）全国教研障害児教育分科会報告

「二年一組 椎名香織さん」

岡本英嗣（松任市立蕪城小学校…当時）

本教材を使った授業から

◆子どもたちは、自分の身に引き寄せて考え、活発に意見を言い合った。あばれだしたかおりちゃんの気持ちについて、寄り添うように考えてあげることのできる子どもが多く感心した。しかし、「もし、自分がその場所にいたらどのような行動をとるか」と問いかけると「黙ってみている」「何にもできないかもしれない」という子どもが半数以上いた。「うーん」と考え込んでいると「先生やったらどうする？」と逆に問い返され、いっしょに「どうしよう」と悩んでしまった。

「かおりちゃんは話すことができないから、こうもりをやりたくてもやれなかった。さとする君は『先生とをしめて』って言ったのは、かおりちゃんの気持ちかわからずに言ったのかもしれないし、もしかしたらかおりちゃんのために『とをしめて』と言ったのかもしれない。もし、この教室にかおりちゃんみたいなのがいたら、かおりちゃんと遊んでかおりちゃんの気持ちをわかるようにしたい。」

「かおりちゃんはずぼうへいきたかった。けど雨でいけないから、こうもりふりのまねをしているけど、かおりちゃんを外へいきたかったと思っいて。だからのぼるくんはかおりちゃんのきもちをしっいて『しめたらだめや』といったと思う。」（加賀江沼）

E 授業の展開例

教師の基本発問・助言	児童の活動・指導の要領
<p>一 導入</p> <p>① きょうは、友だちといっしょに生活することを考える勉強をします。</p> <p>二 展開</p> <p>② 教材（プリント）を読みましよう。</p> <p>③ かおりちゃんは、友だちといっしょにどんなことをしていましたか。</p> <p>④ かおりちゃんは、先生が絵本を読んだとき、どんなことをしましたか。</p> <p>⑤ そのとき、あなたならどうしますか。</p> <p>⑥ のぼる君が「しめたらだめや」と言ったのは、どうしてだと思えますか。</p> <p>三 まとめ</p> <p>⑦ 自分たちの教室にも、かおりちゃんのような話はないでしょうか。自分たちの生活を振り返り、書いてみましょう。</p>	<p>① 教材（プリント）を配る。教材文を、場面ごとに三つに分けて、順次配る方法もある。</p> <p>② わかりにくい語句を説明する。</p> <p>③ かおりちゃんが友だちといっしょに遊んでいたことをおさえ、あとで、振り返るように板書する。</p> <p>④ みんなにとって困った行動をしていたことをおさえる。あとで振り返るように板書する。</p> <p>⑤ 自分だったらどう思い、どう行動したかという意見を出させる。</p> <p>⑥ ③の板書を振り返りながら、いっしょに遊んでいる友だちだということに気づかせる。</p> <p>⑦ クラスの中の、課題を抱えた子どもを考えると、以後の授業につなげていく。</p>